

令和7年度第2回 四万十市総合計画審議会 会議録

- 日 時 令和7年10月22日（水） 14:00～15:55
- 場 所 四万十市役所本庁舎3階 防災対策室
- 出席者 委員30名のうち出席22名
推進本部員16名、事務局2名、委託業者2名 ※別紙：出席者名簿添付

○配布資料

会議次第

- 【資料1】第1回総合計画審議会委員意見資料
- 【資料2】四万十市総合計画の総括（修正版）
- 【資料3】（仮称）第2期四万十市総合計画（素案）
 - （参考1）重点事業（案）
 - （参考2）策定スケジュール
 - （参考3）開催日程表

<結果概要>

1 開会

岡村会長

2 議事

(1) 報告事項

- ①第1回総合計画審議会での意見について
 - ・事務局説明
 - 資料1、資料2、参考1をもとに説明

【質疑等】

特になし

(2) 協議事項

- ①（仮称）第2期四万十市総合計画基本構想（素案）について
 - ・事務局説明
 - 資料3をもとに、基本構想部分までの主に修正点について説明

【質疑等】

- 委 員 : 42頁の基本目標の「まちづくり」という言葉について、西土佐地域で生活している市民もいるので、地域づくりのような表現にしたほうがわかりやすいのではないか。
- 事 務 局 : 基本目標でまちづくりを使っている意味としては、四万十市を1つの「まち」と捉えて将来像をイメージしている。中山間地域対策では地域などの言葉を使うなど施策の項目内で分かりやすく整理し、中山間地域の方にも共感してもらえる計画にしていきたい。

- 委員 : 車いすの方を押して出かけることがあり、段差や傾斜が多くて大変だった。今後高齢者が増えていく中で、道路など優しいまちを作るといった視点を分かりやすく計画に入れてもらいたい。
- 事務局 : 本日審議いただく中では41頁の基本目標3「支え合いで築く、安心して暮らし続けられるまちづくり」政策7に入ってくる。次回会議で障害者福祉施策等の方向性について出てくると思うのでまたご意見いただきたい。
- 委員 : 四万十市の財政状況を見ると借金が多い。午前中の産振の委員会で四万十市の製造品出荷額の半分が食料品、うち8割が畜産関係食料品という説明があった。食肉センター関係が一番多く、食肉センターの改築は四万十市にとって大きなことで、行う必要があるとは思いつつ借金がある中で改築もしたら財政状況は大丈夫なのかと心配になる。基本理念なりに「財政状況も勘案しつつ」のような文言を入れてもらいたい。
- 事務局 : 財政状況を踏まえた修正について検討する。
- 会長 : 38頁「伝統が息づき、人がつながり、未来をともに築くまち」について、伝統が息づくとはどのような状態なのか。もう少し具体的にしたほうが市民はイメージしやすいのではないか。
- 事務局 : 今まで受け継がれてきた伝統の良い部分は10年後も残していつて、10年後も根付いているという意味です。
- 会長 : 伝統とは具体的に何かを示してもらえると将来像をイメージしやすいのではないかと感じた。映像が思い浮かぶような、解像度を高めていつてもらいたい。
- 事務局 : 基本構想で市民の方々に計画そのものを共感していただくことは重要で大切な視点だと思う。部分部分を切り取った中での全体像が見えてくるような表現は難しく、基本計画の中で方針など明確にしていく中で市民の方にもイメージしてもらって共感してもらえるものになればというのが1つある。基本構想でそのようなことがいかに伝わるかを再度検討する。
- 委員 : 38頁に伝統が息づくとはという注釈があるが、これでは説明はできないか。
- 会長 : 説明されているとは思いますが私はイメージできなかった。息づくとあるので、きれいな川があるだけではなく、そのきれいな川で何か担い手がいたり活動があったり、暮らしの中で見え隠れしていたり。それが外から来た人も見えていたりするといった状態なのかと個人的には思っていた。その解像度を高めていつてもらいたいと思った。
- 委員 : 西土佐地域の人口減少を止めるにはどうするかが見えてこない。働く場所がないから都会から工場を持ってくれば良いという話ではなく、林業など今ある産業をいっぱいにして人口を増やす、人口を増やすにはどうしたらいいのかを具体的に考えてもらいたい。

事務局：人口減少、産業振興どちらも重要な課題と考えている。まち・ひと・しごと創生総合戦略で人口減少対策を明記して取り組んでおり、総合計画の策定に合わせて創生会議で改正を進めている。人口減少対策については創生会議で意見をいただきながら今後の対応を考えていきたいと考えている。

会長：従来型の産業だけではなく、人を呼び込めるような新たな産業創出のような観点で構想の中に入っているか。

事務局：今この計画の中でどの部分かということは示せないが、そのような視点は必ず入ってくる。新たな産業を生み出すということは位置付けたいと考えている。

委員：四万十川の浄化に取り組んでいるが汚染されていて、沈下橋付近の河原も草だらけで元には戻らないと思う。具体的に市に要望してもお金がないということで断られるし、そのような中で将来像はイメージできない。避難所についても課題が多くある。

国道 441 号も開通するし、四万十市にとって大きな変化だと思う。旧西土佐と中村の一体的な計画を立ててもらいたい。

事務局：基本構想で四万十川を残すということは明確にしている。それに向けてどうやっていくのか、総合計画の中で個別の具体的な事業までは記載するようにはなっていないが個別の計画で目標数値も定めて整理していくようになる。国道 441 号についても個別計画でインフラなどについて定めていくことになるので実現性があるものに今後整理していく。

会長：議論の進め方の提案をさせていただきたい。基本構想と基本計画を目標ごとにセットアップして議論したほうが意見が出やすくなるのではないか。

事務局と相談するので休憩とします。

— 休憩 —

会長：基本構想と基本計画で分けるのは切り分けが難しいのではないかとということで、委員さんから出た意見を事務局で判断してもらって話していただくのはどうか。基本構想については今回出た意見をもって完成としたいという思いはあったが、基本構想か基本計画かは関係なく意見を出してもらって、この会で基本構想を固めるのではなく次回にも修正の余地は残すという形で進めるようにする。基本計画については詰めている段階ということで、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料 3 の 44 頁以降の基本計画（素案）、これから第 3 回審議会に向けて各担当課、関係団体の考えや思いを含めた形で今後修正をかけていこうと考えていた。正確ではない表現もあるかと思うので、それぞれの説明については控えさせて

いただきたいと思うが基本構想、基本計画関わらずご意見いただきたい。

委員：40 頁に施策の体系の中で地域資源を生かした産業振興ということの1つ目に、地域で暮らし稼げる農業振興とスマート農業の推進という部分は県の政策等考えても整合性があるし、中身も計画として適切だと思う。一部については担当課と協議したいところはあるが大まかには方向性はいいと考えている。

会長：10年ほど前と65歳以上の人口は変わらないが、0～64歳は4,000人減っている。人口の社会動態で一番気になるのは人口ビジョンで、平成29年には社会増減を0にするとしていたが、人口減が起こった。転入が大きく減った。これからどのような人口構成で四万十市を支えていくのか、どのような産業をするのか、どのような暮らしを作るのかというのはどこかで検討して考えられたらいいと思う。もう少し人口減少について分析をしながら、本当に増やしたい人口につながるのかというのは考えていただきたい。外に出ていっている子どもたちが帰ってくる、新しい人たちが入ってくるための産業は何かというのは0からもう少し考え直してもいいのではないかな。

委員：岡村会長の意見も含めながら意見ではなく、結論を先に言うと皆さんの理想のまち像を言っていただければいいのではないかなと思う。理想のまちというのが事務局が考える計画とすり合わせができるのかという話はあるが、その大前提としてご理解いただきたいのは人口減少といった問題は四万十市だけではない。日本全体が2050年には1億人になるというのが確定している。毎月総務省が出している人口統計で9月の前年同月比は日本全国で90万人減っているし、中小企業は45万社減っている。日本全体がそういった背景がある中での四万十市なので、四万十市だけ何かやって急激に変わることはあり得ない。我々が個人のエゴで物を言っても未来はよくできないので協力の意識も必要だと思う。そういった前提で考えた時にそれぞれの方にとっての理想の状態はどのようなものなのかを事務局の方に聞いていただいたほうが次回計画を具体化する意味で参考になるのではないかな。

委員：人口問題をどう取り扱うかというのは重要ではないかなと思っている。まち・ひと・しごと総合戦略で書くので総合計画にはあまり書き込まなくていいんだというような説明だったと思うが、人口問題がない総合計画というのはどうなってしまうのかと心配になった。関係交流人口も書いてあるが、土台は住んでいる人たちの問題をどうするかということではないかな。私は四万十市は人口問題を正面から取り上げて立ち向かう、施策としてやってきたことは一度もないと思っている。まだ必死になってやったことは一度もない。先ほど転入も少しあったということだったが、周辺市町村からずいぶん流入した部分がある。だが今は周辺の市町村からも人を出す余裕がなくなり、四万十市に流入する人が減ったことが転入人口が減った1つだと思う。多少なり総合計画の中で人口問題は取り上げてもらいたい。

それから西土佐のことについても結局四万十市全体がどうかよりも、住民レベ

ルでいうと自分が住む地域がどうなるかが気になること。また伝統について、高齢化によって集落の仕組みは成り立たなくなっている。昔からやっていることはやめて、新しいことをどう作っていくか。森林組合については現場の平均年齢は34歳、Iターンです。地元の子が来たかと思ったら具同か中村の子で、親の職業はサラリーマンか商売人で田舎出身で林業しようという人は1人もいない。東京や兵庫、中村、具同から来るかという状況で従来のことをやっていたら人は来ない。

委員： 逆に西土佐には若い人は来ない、コンビニがないとか色々理由を言って。市街地と周辺地域との違いをはっきりした上でのまちづくりをしていく必要があると思う。山と田んぼと畑しかないところへ別の産業を入れても自然が荒廃するだけ。林業をする人を呼び込まなければ耕作放棄地が増えるだけで、人口が増えても良くはないと思う。

事務局： 人口問題について、まち・ひと・しごと総合戦略では具体の施策を整理していくということであり、総合計画でも31頁で人口減少の抑制という項目を挙げている。中山間地域対策の推進ということも書いており、どのようなことがあるかはまだ説明できないが、総合計画のどこかには柱として位置付けているということだけのご理解いただけたらと思う。

委員： 自分のこととして考えてみると、高齢者になったら足がないからゴミ出しや買い物はどうしようということがたくさんある。子どもがいればどうかというと、子どもも今はやりたいことがあるからと言って戻ってこない。戻ってくるには何が必要か子どもに聞くと、小学校はいいが中学校から高校にかけて学力が下がる傾向にあるということで、いかに学力を上げていくか。若い世代に帰ってきてもらって、安心して子どもを産み育てられるようなまちづくりが大事ではないかと思う。

また、防災について首都圏で大地震が起きて色々なものが集中したら、南海トラフ大地震が発生したら私たちはどうなるのかという心配がある。机上論ではなく実際どうだったのかということを考えていただきたい。

委員： 先日為末公園に行った際に兼松林檎郎という南海地震があった時に地域が良くなるように尽力した人がいることを知った。若者や市民が主体的に関わるようなまちになると今よりも良くなるのではないか。基本構想の中で若者やみんながまちづくりに関わるができるようなまちを目指すといったことを入れてくれたら描きやすくなるのではないか。

委員： デジタル化について45頁に地域資源とデジタル化を活用した仕事と暮らしを育てるまちづくりとあるが、その後の施策を見ても具体的にどのように展開されて、どのような効果が予想されるかが希薄な感じがする。もう少し地域に根差したデジタル化ということを表現できないものかと思った。

委員： 色々な意見が出たが私は素晴らしいと感じたが、計画を成功させるための予算

はあるのか。

事務局： 紐づいてくる具体の施策によって予算的なものは変わってくるため今どれだけの予算が必要かということは見えてこないが、将来像を定めて、そこに向かってこういった施策をしていきたいと思いますという位置づけの計画になる。必要な経費は確保しながら、ただし最小の経費で効果が発揮できるような工夫もしながら予算の状況を見ながら組み立てていくということにはなるといったところで考えていただきたい。

会長： 外国人の方々や移住されてきた方々、会社ができた時など新しい人たちが定着するような取り組みはあるのかも気になった。

基本計画については今書かれているものから担当課や関係団体の意見も踏まえて、また新しいものになってくると思うのでご意見をお願いします。

7 その他

事務局： 次回の第3回審議会の会資料は修正途中の資料（案）という形での提示になることをご了承願います。

会長： 次回の議論では資料何ページの、ここについての意見といったピンポイントで意見をさせていただくようにお願いします。

以上で閉会します。

8 閉会

別紙

令和7年度第2回 四万十市総合計画審議会 出席委員名簿

◎：会長、○：副会長

区分	所属	氏名	備考
公共的団体等に属する者	(一社) 四万十市観光協会	小松 昭二	
公共的団体等に属する者	四万十川漁業協同組合連合会	金谷 光人	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	下田漁業協同組合	藤田 豊作	
公共的団体等に属する者	高知県農業協同組合	竹吉 功	
公共的団体等に属する者	中村市森林組合	宮本 昌博	
公共的団体等に属する者	西土佐村森林組合	山崎 一夫	
公共的団体等に属する者	中村商工会議所	○ 佐田 博	
公共的団体等に属する者	四万十市西土佐商工会	上村 賢介	
公共的団体等に属する者	(一社) 中村青年会議所	野元 亮佑	
公共的団体等に属する者	四万十市商店街振興組合連合会	土居 愛明	
公共的団体等に属する者	四万十市自主防災会連合会	杉本 義和	
公共的団体等に属する者	四万十市消防団	遠近 永年	
公共的団体等に属する者	四万十市区長会	○ 濱田 正也	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	高知県地球温暖化防止活動推進委員	滝石 典子	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市社会福祉協議会	大林 郁男	
公共的団体等に属する者	四万十市中村地区民生児童委員協議会	浜田 精一	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市西土佐地区民生児童委員協議会	太宰 政博	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市医師会	小原 長生	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市保育所PTA連合会	西内 洋勝	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	子ども・子育て会議 (NPO 法人スマイルはたっこ)	久保 美保	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市小中学校PTA連合会	平野 祥智	
公共的団体等に属する者	四万十わかば更生保護女性会	西 美和	
公共的団体等に属する者	四万十人権擁護委員協議会	助村 通俊	
公共的団体等に属する者	男女共同参画推進協議会	清水 奈緒美	
公共的団体等に属する者	四万十市文化協会	谷田 洋子	
学識経験を有する者及び市民	有識者	◎ 岡村 健志	
学識経験を有する者及び市民	有識者	須山 美樹	
学識経験を有する者及び市民	有識者	中 洋介	
学識経験を有する者及び市民	一般公募市民	金澤 ゆず香	
学識経験を有する者及び市民	一般公募市民	上岡 三郎太	

令和7年度第2回 四万十市総合計画審議会 推進本部員出席者名簿

〈本部長〉

職	氏名	備考
西土佐総合支所長兼地域企画課長	佐川 徳和	
総務課長	山崎 寿幸	
地震防災課長	安岡 栄治	
企画広報課長	武田 安仁	事務局長
財政課長	竹田 哲也	
税務課長	山崎 行伸	
環境生活課長	横山 昌之	
子育て支援課長	中脇 弘樹	
健康推進課長	竹本 美佳	
高齢者支援課長	橋田 慎也	〈代理出席〉
観光商工課長	遠近 由幸	
農林水産課長	吉田 貴浩	
まちづくり課長	中山 良	〈代理出席〉
上下水道課長	岡村 速人	
福祉事務所長	渡辺 和博	
学校教育課長	岡本 寿明	
生涯学習課長	戸田 裕介	
市民病院事務局長	伊勢脇 正大	〈代理出席〉
産業建設課長	竹本 志郎	

〈事務局〉

企画広報課長補佐	宇都宮 朋彦	
企画調整係長	田中 佑典	
株式会社 GPMO		